

音楽アーティスト科 ヴォーカルコース 受講科目一覧 1年次

ヴォーカル総合専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 45 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅰ（前期）	34	2	1
実習	分野別実習Ⅰ（後期）	34	2	1
講義	業界知識Ⅰ	72	2	4
演習	共同演習Ⅰ	68	2	4
講義	音楽理論/調音Ⅰ	68	2	4
講義	音楽史Ⅰ	68	2	4
講義	表現Ⅰ	68	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	68	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術Ⅰ	68	2	2
実習	歌唱/演奏実技Ⅰ	68	2	2
実習	歌唱/ダンスパフォーマンス実習Ⅰ	68	2	2
実習	サウンドアナライズⅠ	68	2	2
演習	アンサンブル基礎Ⅰ	68	2	4
演習	アンサンブル応用Ⅰ	68	2	4
合計		888	28	40

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅠ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	業界知識Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
・音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。					
到達目標					
前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界の仕事内容について学びます。 後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学びます。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事内容について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事の流れについて理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来までの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～18回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 19～21回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 22～25回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRACの問題点 JASRACの功罪などについて理解する 著作者に關わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 26～28回目	著作者に關わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作者に關わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作隣接権に關わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 29～31回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 32～36回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。
学生へのメッセージ	仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	ホームルームも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカルグループⅠ		授業形態 / 必選	演習		必修
	学則別表上表記	共同演習Ⅰ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/ダンスヴォーカルパフォーマー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当	■	非該当 □
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀熱気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画への楽曲提供なども行なっている。					
授業概要						
多くの難易度の高い楽曲(GOSPEL・ミュージカル楽曲・POPS等)を通し、心の解放・ハーモニーへの理解、発声や歌唱法を学ぶ。 時にはリードボーカルのオーディションを行い、学生同士で競争することによる技術向上を目的とする。						
到達目標						
・大人数の中で歌うために必要な知識や技術の習得。ハーモニー(ハモリ)を作ることの技術習得。						
・グループの一員としてステージに立ち、時にはchoirとして、時にはリードボーカルとしての歌唱法や立ち振る舞い、パフォーマンスを学ぶ。						
・ハモることへの不安がなくなる。						
・心を解放させ身体全体を使ってステージパフォーマンスができる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	パート分け(女子2パート、男子2パート) 1曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【前期】 4～7回目	2曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定 1曲目とともにLIVE WEEKに向けてパフォーマンス込みで練習。
【前期】 8～10回目	3曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定 1曲目とともにLIVE WEEKに向けてパフォーマンス込みで練習。
【前期】 11～13回目	4曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【前期】 14～17回目	前期まとめ (1～4曲目の復習) ■前期試験:課題曲の歌唱により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	5曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 21～24回目	6曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 25～27回目	7曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 28～30回目	8曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 31～34回目	過去にやった曲の中からLIVE WEEKに向けて選曲、復習、パフォーマンス込みで練習 ■後期試験:課題曲の歌唱により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	グループボーカルを経験することにより、ハーモニーに対する不安感を拭えます。また、普段は聴かないようなGOSPEL等を聴くことにより、リズム感や発声法を学ぶこともでき、大人数で声を出すことにより、心の解放や私たちの声を持つパワーを直接感じることもできます。この授業を通して様々なジャンルに触れ、多くのことを学ぶきっかけにしましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー & キーボード I		授業形態 / 必選	講義	選択	
	学則別表上表記	音楽理論/調音 I	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	KAN、浜崎あゆみ、林原めぐみなど様々なアーティストのバックコーラスやレコーディング制作に携わる。 23歳時にアニメセイバーマリオネットact5エンディング「風の詩を聴きながら」でメジャーデビュー。TVCMソング「マツモトキヨシ」他歌唱多数。 並行して、ヴォイストレーナーとして多数アーティスト(元学生はDAIGO、太田在etc)の指導を行っていた。 近年は80'sbar reflexハウスバンド歌手として毎週末stage歌唱、DISCO DJうらりーな、演劇ミュージカル出演活動もしている。昨年までコミュニティラジオ天神でサブパーソナリティもしていた。昨年デビューした福岡アイドルchitchatの専属ヴォーカルトレーナーもデビュー前から現在している。					
授業概要						
音楽の基本的な決まり事を学ぶ「理論」と、音感を鍛える「聴音」の授業です。 理論では正確に楽譜を読み書きする能力を得ること、作曲の為の基礎知識を養うこと、音楽用語の意味を学びます。聴音では音程やリズムを耳で聴き取り、演奏や譜面におこすことができる能力を得ます。 また、様々なジャンルの音楽の基礎知識を学ぶことにより、音楽人に必要な力も養います。						
到達目標						
・音楽理論を学び、音楽人としての共通言語(専門用語)を習得する。						
・キーボード(鍵盤の音並び)の構造を理解して、読譜やシンプルなリズムのコード伴奏が出来るようになる。						
・音楽の基礎構造(音程、和音、リズム等)を理解する。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ウォーミングアップ発声、音符と休符、リズムのトレーニング、メジャースケール。キーボードで弾きながら確認。
【前期】 4～7回目	インターバルの紹介、読譜。キーボードで聞き分ける。
【前期】 8～10回目	テンポとリズム、ブレスのメカニズム、音域チェック、FメジャーキーとGメジャーキー。
【前期】 11～13回目	ハモリ、123メロディー発声、タイと付点子音。キーボードで弾いて確認。
【前期】 14～17回目	5度圏、全てのキーでメジャースケール確認。 ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / キーボードでメロディを弾く / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	1234メロディー発声、16分音符リズムトレーニング、ロングブレス。キーボードでトライアドコードを押さえる。
【後期】 21～24回目	数字インターバル。ダイアトニックコード。
【後期】 25～27回目	ダイアトニックコードを理解して、3コードをどのキーでも弾けるようにする。みんなでジャムしてみよう。ブルースコード進行。
【後期】 28～30回目	売れ線コード進行、カノンコード進行。好きな曲のコード進行アナライズ。テンションコードの紹介。
【後期】 31～34回目	ヒット曲のメロディアナライズ。 ■後期試験:筆記試験とキーボード実技「譜面の基礎名称の理解 / シンプルなコード進行理解力 / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	理論をマスターして「なぜカッコ良いのか」「どうしてグッと来るのか」といったことが分かってくると、「気持ちをこめる」だけでなく「気持ちを伝える」表現豊かな音楽ができるようになるでしょう。 また、なんといってもミュージシャンは耳が命です。音楽からいろんなアイデアをキャッチできるようになりましょう。 他にも、理論や聴音を学ぶことは、今後の歌唱・演奏や作曲の手助けになるにもなります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムヴォーカルの歴史と体系Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	選択		
	学則別表上表記	音楽史Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀熱気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画、への楽曲提供なども行なっている。						
授業概要							
・ヴォーカルの為のリズムトレーニング、身体づくり、リズムの歴史を学ぶ。(リズム史＝POPS音楽史) ・ヴォーカルに活かすためのリズム発声～アドリブスキャットまで。							
到達目標							
・漠然と歌のメロディーを歌えるのではなく、頭と体でリズムを理解し、コントロールできるテクニックを身に着ける。 ・ジャンルごとのリズムの特徴を学び、歌いまわしのクオリティーを上げる。 ・体全体でリズムをキープしながら、瞬時にいかなるヴォーカルアプローチも出来るようになる。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽の歴史【ROCK】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【前期】 4～7回目	音楽の歴史【R&B】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【前期】 8～10回目	音楽の歴史【REGGAE】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【前期】 11～13回目	音楽の歴史【MIXTURE】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【前期】 14～17回目	応用編【スキット】スキットとは、リズムのフィールを感じ取り声で表す、コール&レスポンス ■過去前期試験例：筆記試験にて「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	音楽の歴史【BLUES】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【後期】 21～24回目	音楽の歴史【FUNK】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【後期】 25～27回目	音楽の歴史【SOUL】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【後期】 28～30回目	音楽の歴史【JAZZ】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【後期】 31～34回目	1年間トータル復習・確認 ■過去後期試験例：筆記試験にて「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽のジャンルについて学んでいく中で、その音楽の成り立ちを知ろうとすると、歴史や時代背景を知る、ということにつながっていきます。リズム強化のための授業ですが、様々なジャンル、歴史について触れ、知ることによって価値観も磨いていきます。価値観は表現力につながっていきます。様々な観点から歌唱力向上を目指していきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	感情表現・滑舌Ⅰ		授業形態／必選	講義	選択		
	学則別表上表記	表現Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科　ヴォーカル						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当　■	非該当　□
担当講師 実務経歴	TVアニメ「ポケットモンスターBW」、外画「ザ・パシフィック」など出演作品多数。演技のジャンルに囚われず、テレビドラマや舞台、ナレーターなど2009年より声優として幅広く活動。現在は、ナレーター、ボイストレーナーを中心に活動中。声優としてだけでなく、様々な現場経験を活かした講義内容となっている。						
授業概要							
歌唱時の「感情表現力の向上」と「滑舌の改善」を目的に、基礎となる知識と技術を講義と実践で学んでいきます。 歌唱パフォーマンスを行う際の「顔の表情/身体の動き/声」など、それぞれ感情を表現する力を向上させる。 また発声時の滑舌を改善し歌唱時の歌詞をより聴き取り易くし、聴き手の歌詞や世界観を理解しやすくする説得力を向上させる。 これにより楽曲を表現する際の「深みや解像度」を増し、総合的なパフォーマンス力向上を目指します。							
到達目標							
・歌唱及び身体を用いての感情表現力の基礎を学び向上させる。							
・滑舌・発声を鍛えて声による表現の幅を広げる。							
・身体性・呼吸・歌唱技術を総合的に統合しパフォーマンスへと昇華する。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	・呼吸・姿勢・身体操作の基盤を身につける ・共鳴・声の方向性コントロールを学ぶ ・滑舌の基礎技術を学ぶ
【前期】 4～7回目	・母音の制御／歌詞の聞き取りやすさ ・子音の立ち上がり／リズムを作る発音 ・歌詞の明瞭度強化 ・声色(ボイスカラー)のバリエーション
【前期】 8～10回目	・強弱(ダイナミクス)コントロール ・セリフ→歌唱への感情移行 ・リズムと身体の連動
【前期】 11～13回目	・発音のニュアンス操作 ・フレーズの流れと言葉の重心 ・喜・怒・哀・楽の声と身体
【前期】 14～17回目	・感情の強度コントロール ・1曲の感情設計 ・高速フレーズ対応 ・粒立ちのコントロール ■前期試験:実技試験にて「感情表現の習熟度/発声の明瞭具合」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	・実曲発音クリニック ・プレス設計の技術 ・長フレーズ強化
【後期】 21～24回目	・声量・小声表現の幅 ・ハスキー／ウィスパリーの安全な使い方 ・シャウト・強い発声 ・声質キャラクター作り
【後期】 25～27回目	・感情×滑舌×声質の統合① ・曲ごとの表現切り替え ・ライブ想定総合練習
【後期】 28～30回目	・音声分析(客観視) ・感情表現の伝達度分析 ・映像分析(ボディ&表情)
【後期】 31～34回目	1年間トータル復習・確認 ■後期試験:実技試験にて「感情表現の習熟度/発声の明瞭具合」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「感情表現力/発声時言語明瞭具合(滑舌)」の2項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	なぜアーティストなのに演技ベースのレッスンを？と思うかたもいるかもしれませんが…何を言っているかわからないと、伝えたいものも半分くらいしか伝わりません。まずは伝わる滑舌・発声を身に付けて、それから言葉を超越した表現ができるよう一緒に頑張っていきましょう！
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカルサイエンス/テクニックⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □					
担当講師 実務経歴	福岡や熊本を拠点とし、プロダクションや個人レッスン等でヴォイストレーナーとして幅広く活動中。ハリウッド式メソッドを中心としたヴォイストレーニングを採用。SSWオリジナル曲のヴォーカルディレクションやプロダクション所属アイドルへの歌唱指導など、各ジャンルに応じた歌唱力・表現力向上の為の技術指導を行う。					
授業概要						
発声のメカニズムを理解し、歌唱に必要なテクニックを身につける。						
到達目標						
・チェストボイス、ヘッドボイスなど声色それぞれの基礎発声を身につける。 ・発声のメカニズムを理解した上での基礎発声練習を積み重ね、声域を拡げる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	教科書使用(ボイス理論1～3)チェスト開発
【前期】 4～7回目	教科書使用(ボイス理論4～7)チェスト開発
【前期】 8～10回目	教科書使用(ボイス理論8～10)ヘッド開発
【前期】 11～13回目	教科書使用(ボイス理論11以降)ヘッド開発
【前期】 14～17回目	教科書使用(ボイス理論まとめ) ■前期試験:課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
【後期】 18～20回目	チェストとヘッドのバランス／共鳴作り
【後期】 21～24回目	チェストとヘッドのバランス／共鳴作り
【後期】 25～27回目	ミドルボイス開発
【後期】 28～30回目	ミドルボイス開発
【後期】 31～34回目	基礎発声練習(ミドルボイスの開発・定着) ■後期試験:課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	テクニックだけが大事なものではありませんが、そのテクニックへの理解を深めることにより自由な表現への足がかりとなります。思考のパターンをプロ仕様へと改変していきましょう。
備考	使用教科書「ヴォーカルテクニック」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニングⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択		
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ダンスヴォーカルパフォーマー						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀熱気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画への楽曲提供なども行なっている。						
授業概要							
ヴォイストレーニングを通し、正しい発声の仕方、音域の拡張、共鳴のさせ方を学習していきます。 ウォーミングアップの方法・腹式呼吸の習得・表情筋の使い方・母音を正しく響かせる口の開け方など。 また、歌唱の基礎であるチェストヴォイス～ミックスヴォイス～ヘッドヴォイスの声区融合とリズム感も併せて学習します。							
到達目標							
・ストレッチや筋力トレーニングにより、歌唱に適した体を作る。							
・様々なスケールを用い、主にチェストヴォイスを鍛えて地声で力強く発声できるようになる。							
・ヘッドヴォイスを学ぶことで、響く声、共鳴を身に付ける。							
・様々な声色(チェストヴォイス、ミックスヴォイス、ヘッドヴォイス)を習得し、歌唱へ反映させていく。							
・相対音感トレーニングにより、正しい音感を身に着ける。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ウォーミングアップ編 ～発声に入る前の準備運動～ / ストレッチ・筋トレ・リップロール・ハミング
【前期】 4～7回目	地声、低音強化編 ～地声強化のための発声練習法の取得～ / 喉を開くということ、声帯の動き、体の使い方
【前期】 8～10回目	地声、低音強化編 ～地声強化のための発声練習法の取得～ / 喉を開くということ、声帯の動き、体の使い方、リズムトレーニング
【前期】 11～13回目	裏声、ミックスヴォイス強化編 ～裏声強化のための発声練習法の取得～ / 声の種類について、息のコントロール、後ろ側の響きと前側の響き
【前期】 14～17回目	反復練習 / 地声強化のための課題曲（発声に意識して歌唱してみる） ■過去前期試験例：筆記、発声の実技試験により「練習メニューの理解度、取得度」から到達点を確認する。
【後期】 18～20回目	喚声点攻略編 ～喚声点が見えにくくなるための発声練習法の取得～ / 声の種類について、共鳴移動、声のコントロール
【後期】 21～24回目	喚声点攻略編 ～喚声点が見えにくくなるための発声練習法の取得～ / 声の種類について、共鳴移動、声のコントロール
【後期】 25～27回目	反復練習 / 共鳴移動のための課題曲（音域の広い楽曲の選曲し歌唱の中で共鳴移動を実践する）
【後期】 28～30回目	応用練習 / 様々な声色のための課題曲（別の音域を複数人で歌うことで相対音感も養いつつ、美しいハーモニーに必要な声色で歌唱してみる）
【後期】 31～34回目	総合的反復練習 / 各自課題曲（発声に意識して歌唱してみる） ■過去後期試験例：各自指定された楽曲を歌唱。「総合的な完成度」から到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の3項目の到達度、理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	発声とリズムは歌唱の基礎で最も重要な技術です。発声練習は自分の声質を把握し、より良くしていくために欠かせません。チェストヴォイス(地声)の音域はトレーニング次第で伸ばすことができます。高く歌えないと思っていた楽曲でもトレーニング次第で歌えるようになります。また、裏声や低音域をしっかり鍛えることで、歌唱の中で使える音色を多く習得することが可能です。自分の音域や癖をしっかり把握しトレーニングに励み、歌える楽曲の幅を広げましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セルフプロデュース/オリジナル歌唱実習Ⅰ		授業形態 / 必選	実習		選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏実技Ⅰ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当	■	非該当 □
担当講師 実務経歴	これまでCMへのオリジナルソングの提供、ラジオ、ドキュメンタリー番組等に出演。 その後渡米し現地ミュージシャンとセッションを重ねる。 福岡、東京にて音楽イベントに多数出演。動画制作への楽曲提供なども行う。ボーカル、ピアノでの受賞経験も多数。 メジャーアーティストへのレッスン提供や、後進の育成にも励みデビューした生徒も多数。					
授業概要						
ヴォーカリストとして必要な「自分の音楽を理解し、作り、表現する」能力の土台を構築していきます。 前期で作詞の構造理解/作曲・編曲の基礎を学ぶことで、半年で1曲オリジナル楽曲の制作を行っています。 後期には自作曲を自分の声で届けるための歌唱技術を磨き、楽曲の意図に沿ったパフォーマンスの完成/向上を行います。						
到達目標						
・Aメロ／Bメロ／サビの構造を理解し、自力で曲を企画・発注できるようになる。						
・歌詞のテーマ設定・ストーリー構築ができるようになる。						
・自分の楽曲の意図を理解し、言葉と歌唱を一致させて表現できるようになる。						
・作成した楽曲を携え、オーディションや配信など音楽活動に活かせるようになる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	・ガイダンス／音楽をつくるとは？オーディション等音楽活動にどう活かしていくか ・作詞の基礎講座/実践 ・自身の音楽性の分析
【前期】 4～7回目	・メロディの作り方入門 ・リズムとフレーズ感、1小節～4小節フレーズ作成 ・AI×手作業のハイブリッドで制作実践
【前期】 8～10回目	・楽器(アコギ/鍵盤など)、DAW、AIサービスなど自作できる環境の確認 ・デモ曲を作成してみる ・自作歌詞とメロを組み合わせてみる
【前期】 11～13回目	・仮唄を歌い可能であれば録音する ・歌詞と楽曲の微調整
【前期】 14～17回目	・ブラッシュアップ、後期に向けて曲を磨き上げる ■前期試験：自作楽曲のプレゼンによる到達度の確認。
【後期】 18～20回目	・自作曲の歌詞・物語・感情分析 ・ビッチ・リズム、メロディの歌いこなし確認 ・サウンドクリエイターコース生へ楽曲編曲の発注
【後期】 21～24回目	・自作曲を歌唱し楽曲へのフィードバックと歌唱指導① ・編曲/ブラッシュアップ
【後期】 25～27回目	・自作曲を歌唱し楽曲へのフィードバックと歌唱指導② ・編曲/ブラッシュアップ
【後期】 28～30回目	・自作曲の歌唱レコーディング
【後期】 31～34回目	■前期試験：自作楽曲の歌唱による到達度の確認。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自分自身の歌唱で表現したい事を再確認し、形にすることで俯瞰的に自身が見えてくると思います。 作品作りと歌唱を通して、卒業後のイメージをよりしっかりと持ちながら活動出来る様になりましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニング/ ピッチワークアウトⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	歌唱/ダンスパフォーマンス実習Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 ヴォーカル/ダンスヴォーカルパフォーマー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	KAN、浜崎あゆみ、林原めぐみなど様々なアーティストのバックコーラスやレコーディング制作に携わる。 23歳時にアニメセイバーマリオネットact5エンディング「風の詩を聴きながら」でメジャーデビュー。TVCMソング「マツモトキヨシ」他歌唱多数。 並行して、ヴォイストレーナーとして多数アーティスト(元生徒はDAIGO、太田在etc)の指導を行っていた。 近年は80'sbar reflexハウスバンド歌手として毎週末stage歌唱、DISCO DJうらりーな、演劇ミュージカル出演活動もしている。昨年までコミュニティラジオ天神でサブパーソナリティもしていた。昨年デビューした福岡アイドルchitchatの専属ヴォーカルトレーナーもデビュー前から現在している。					
授業概要						
譜面読みを用いた、ピッチ鍛錬実技トレーニング。音楽の基本的な決まり事を学ぶ「理論」と、音感を鍛える「聴音」の授業です。 理論では正確に楽譜を読み書きする能力を得ること、作曲の為の基礎知識を養うこと、音楽用語の意味を学びます。聴音では音程やリズムを耳で聴き取り、演奏や譜面におこすことができる能力を得ます。 また、様々なジャンルの音楽の基礎知識を学ぶことにより、音楽人に必要な力も養います。						
到達目標						
・歌唱の際のピッチにフォーカスしてトレーニング方法を学び、正しい音感を身に着ける。 ・メロディーを譜面で読める様になり、歌唱に落とし込めるようになる。 ・自身の歌唱時の発声レンジを知り、得意なレンジを把握する。また、発声レンジを拡大する。 ・イヤートレーニングによる聴音力を獲得する。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ウォーミングアップ発声、音符と休符、リズムのトレーニング、メジャースケール。
【前期】 4～7回目	インターバルの紹介、読譜。イヤートレーニング。跳躍の無いメロディ聴き取り。
【前期】 8～10回目	テンポとリズム、ブレスのメカニズム、音域チェック、FメジャーキーとGメジャーキー。スケールからキー(root)を聴き取る。
【前期】 11～13回目	ハモリ、123メロディー発声、タイと付点子音。ハンドクラップでリズムを感じる。
【前期】 14～17回目	5度圏理解、リズム聴き取り(イヤトレ)、Gメジャーメロディ譜読み。 ■前期試験:実技試験「イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	16分音符リズムトレーニングハンドクラップ。Gメジャー、Fメジャー譜読み。
【後期】 21～24回目	跳躍したメロディ聴き取り、譜読み。
【後期】 25～27回目	付点リズムトレーニング、メロディ聴き取り、#キー譜読み。
【後期】 28～30回目	シンコペーションリズムトレーニング。リズム聴き取り。#系メロディ譜読み。
【後期】 31～34回目	ヒット曲のメロディ譜読み。 ■後期試験:実技試験「リズム譜読み / イヤトレカ / 跳躍メロディ読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	いろんなメロディ譜読みをして、自分が歌いたいメロディを確実にしてヴォーカル口力の基礎の音程発声安定感を養う。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	歌唱実習Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択		
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅠ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ダンスヴォーカルパフォーマー						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	音楽大学ミュージカル科首席卒業。声楽歴25年、バレエ・ジャズダンス歴15年、「タイムフライズ」「ゴースト」「魔法のオルゴール」などミュージカル多数出演。水樹奈々アリーナコンサート、白寿ホールコンサート、その他コンサートMCやレコーディング、TBSドラマなども出演。歌唱・ボイストレーニング講師として、AKB48、HKT48、スターダストプロモーション福岡、ぱってん少女隊のボーカルコーチ、子役から劇団四季劇団員指導なども行う。また、コーチングの国際資格を活かし、メンタルサポートも行う。						
授業概要							
バラードやアップテンポといったテーマに合わせて自分で選んだ曲を歌い、自分が歌うだけでなく、他者の歌唱を聞いて、見て、【歌う】【聞く】【考える】のサイクルで授業が進んでいきます。自ら選んだ楽曲を歌いこみながらテクニックをきめ細やかに、また感情表現をより深めながらシンガーとしての自らをワークショップスタイルの中で確立していきます。							
到達目標							
自ら選曲した一つの楽曲の中で、音程、リズム、などの観点から『基礎的な技術』を、ダイナミクス、魅せ方(パフォーマンス)などの観点からは『技術的な表現力』の取得をしていきます。そこに、同じ楽曲を数週間歌い続けていく中で考察し、深めた、その楽曲への自分的解釈を足すことで『自分の歌』にできるシンガーを目指します。また、自分の歌唱を客観視できるようになるため、他者の歌を分析することで、聞く力、気づききっかけを養っていきます。ここで得た''歌唱力''を用いて「人に届く歌」が歌えるようになること、それが「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」へと繋がるようにサポートしていきます。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【自由曲①(得意ジャンル)】持ち味、武器となる部分を見つけていきます。
【前期】 4～7回目	【自由曲②(苦手ジャンル)】苦手な分野にトライし、苦手克服を目指します。
【前期】 8～10回目	【自由曲③(ジャンルレス)】ジャンルに囚われず、今、自分にとって必要な要素を取得することを目的として選曲していきます。
【前期】 11～13回目	【自由曲④(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。
【前期】 14～17回目	【自由曲(アドバイスの必要な楽曲)】テストに向けた候補曲や、LIVE WEEKでの歌唱曲など、今アドバイスが欲しい楽曲を選曲します。 ■過去前期試験例:(ジャンルのみを指定)課題曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	【自由曲⑤(洋楽)】言語の壁はもちろんのこと、リズムや表現方法などが全く日本の楽曲と異なります。どんなジャンルでも歌えるシンガーになるために様々な楽曲への歌唱のアプローチ法を考察します。
【後期】 21～24回目	【自由曲⑥(洋楽)】言語の壁はもちろんのこと、リズムや表現方法などが全く日本の楽曲と異なります。どんなジャンルでも歌えるシンガーになるために様々な楽曲への歌唱のアプローチ法を考察します。
【後期】 25～27回目	【自由曲⑦(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【後期】 28～30回目	【自由曲⑧(完全自由曲)】一年間の集大成となるような難易度の曲を選曲します。憧れていたけど歌ってこなかった曲、自分にとって少し難易度の高い曲を選ぶことで現在地を確認する。
【後期】 31～34回目	【自由曲(①～⑧より選択)】これまで歌い込んできた曲をもう一度歌うことで、前期の自身と比べることができ、より深く自身の歌唱力と向き合っていきます。■過去後期試験例:自由曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	歌うことを職業にしていくなめには、技術は絶対に必要になってきます。この技術を取得し続けるためには、自分で課題を見つけ、自分で課題を解決していく力を身につける必要があります。その一連の流れが一人でできるようになるための練習をこの授業の中で学んでいきます。 まずは気づくこと。知ること。そこから始めていきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択	
	学則別表上表記	アンサンブル基礎Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐					
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀熱気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画、への楽曲提供なども行なっている。					
授業概要						
課題曲に内包されているテクニック、リズム、ハーモニーなどの類例を自らの経験値として取り込みながらバンドアンサンブルについて理解を深める。 3週で楽曲が変更。ライブイベントへ向けてのリハーサルも兼ね、パフォーマンス力、ステージング力の向上をもはかっていく。						
到達目標						
・ボーカルだけでなく各楽器(Gt. Ba. Dr.)とのアンサンブルができるようになる ・曲を理解し、バンド内のコミュニケーション、ボーカル以外の音の聴き方、リズムの取り方を身に着ける ・楽器の音、バンドアンサンブルにおける自分の音をしっかりと聞き分けられるようになる						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	1曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 4～7回目	2曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 8～10回目	3曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 過去3曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【前期】 11～13回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティーを上げるためのリハーサル週間
【前期】 14～17回目	4曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 ■前期試験:課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	5曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 21～24回目	6曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 25～27回目	7曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 28～30回目	8曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 後期4曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【後期】 31～34回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティーを上げるためのリハーサル週間 ■後期試験:課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルは音楽活動をするうえで避けては通れない技術になります。楽曲の理解、バンド内コミュニケーション、全体のサウンドにおける自分の歌の位置づけを知ることは歌のクオリティを上げるために非常に重要なことです。ボーカル以外の楽器の音を聴き分けることもアンサンブルを上達させるために必要になります。この授業を通して、楽曲の聴き方、音楽のより深い楽しみ方を学び、人と人とが奏でる音楽・アンサンブルに繋がっていきます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブパフォーマンス実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択	
	学則別表上表記	アンサンブル応用Ⅰ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☒ 非該当 ☐
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀熱気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画、への楽曲提供なども行なっている。					
授業概要						
課題曲に内包されているテクニック、リズム、ハーモニーなどの類例を自らの経験値として取り込みながらバンドアンサンブルについて理解を深める。 3週で楽曲が変更。ライブイベントへ向けてのリハーサルも兼ね、パフォーマンス力、ステージング力の向上をもはかっていく。 ※アンサンブル基礎Ⅰの二コマ目として実施						
到達目標						
・ボーカルだけでなく各楽器(Gt. Ba. Dr.)とのアンサンブルができるようになる						
・曲を理解し、バンド内のコミュニケーション、ボーカル以外の音の聴き方、リズムの取り方を身に着ける						
・楽器の音、バンドアンサンブルにおける自分の音をしっかりと聞き分けられるようになる						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	1曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 4～7回目	2曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 8～10回目	3曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 過去3曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【前期】 11～13回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティを上げるためのリハーサル週間
【前期】 14～17回目	4曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 ■前期試験:課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	5曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 21～24回目	6曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 25～27回目	7曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 28～30回目	8曲目:仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 後期4曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【後期】 31～34回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティを上げるためのリハーサル週間 ■後期試験:課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルは音楽活動をするうえで避けては通れない技術になります。楽曲の理解、バンド内コミュニケーション、全体のサウンドにおける自分の歌の位置づけを知ることは歌のクオリティを上げるために非常に重要なことです。ボーカル以外の楽器の音を聴き分けることもアンサンブルを上達させるために必要になります。この授業を通して、楽曲の聴き方、音楽のより深い楽しみ方を学び、人と人とが奏でる音楽・アンサンブルに繋げていきます。
備考	

音楽アーティスト科 ヴォーカルコース 受講科目一覧 1年次

ネットシンガー専攻

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 4 5 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅰ（前期）	34	2	1
実習	分野別実習Ⅰ（後期）	34	2	1
講義	業界知識Ⅰ	72	2	4
演習	共同演習Ⅰ	68	2	4
講義	音楽理論/調音Ⅰ	68	2	4
講義	音楽史Ⅰ	68	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	68	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術Ⅰ	68	2	2
実習	歌唱/演奏実技Ⅰ	68	2	2
実習	歌唱/ダンスパフォーマンス実習Ⅰ	68	2	2
実習	サウンドアナライズⅠ	68	2	2
演習	アンサンブル基礎Ⅰ	68	2	4
演習	アンサンブル応用Ⅰ	68	2	4
実習	DAW・DTM基礎Ⅰ	68	2	2
合計		888	28	38

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅠ		授業形態 / 必選	講義	必修	
	学則別表上表記	業界知識Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 全コース					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ☐	非該当 ■	
担当講師 実務経歴						
授業概要						
音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。						
到達目標						
前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界の仕事内容について学ぶ。 後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学ぶ。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事内容について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事の流れについて理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来までの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～18回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 19～21回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 22～25回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRACの問題点 JASRACの功罪などについて理解する 著作者に關わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 26～28回目	著作者に關わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作者に關わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作隣接権に關わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 29～31回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 32～36回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施する。 S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。
学生へのメッセージ	仕事内容の伝わりにくい業界のため、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしましょう。
備考	ホームルームも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	動画配信ベーシックⅠ		授業形態 / 必選	演習	必修		
	学則別表上表記	共同演習Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68)単位時間	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル(ネットシンガー専攻)						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	俳優歴として舞台、CM、ドラマ等多数出演。また所属劇団の広報用映像の制作、編集を自身で行うと共に、ゲーム会社のCM編集、YouTuberの動画編集の依頼を受けるなど映像クリエイターとしても活動。その経験を活かし実践指導を行う。						
授業概要							
インターネット上で活動するための撮影、動画編集(Premiere Pro)、演者としてのトークスキル、自己プロデューススキルなどを学ぶ。							
到達目標							
世界の新興大企業のほとんどが配信サービスを持っており、ゲーム実況、雑談、カラオケなど多岐にわたる。自分のパーソナルな強みを探しながら、それを活かせるコンテンツ制作はどんなものかを考え、挑戦できる姿勢と能力を身に着ける。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	動画配信者、インフルエンサーだけでなく、表現者に求められる考え方
【前期】 4～7回目	演者としてのトークスキルを様々なワークやゲームを通して楽しく身につける
【前期】 8～10回目	SNSマーケティングの入門的なこと、自分自身がコンテンツを作るものとして必要な考え方
【前期】 11～13回目	Premiere Proの基本操作
【前期】 14～17回目	前期の復習・確認 ■前期試験：簡単な動画コンテンツを1つ作成する
【後期】 18～20回目	演者としてのトークスキルを様々なワークやゲームを通して楽しく身につける
【後期】 21～24回目	Premiere Proの基本操作
【後期】 25～27回目	自分のアイデアを元に動画コンテンツの企画を立案
【後期】 28～30回目	自分で企画したものを撮影
【後期】 31～34回目	1年間トータル復習・確認 ■後期試験：自分の強みが活かされる動画コンテンツを1つ完成させる
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「演者としてのコミュニケーション能力 / 基礎的な動画編集能力 / 自己プロデュース能力 / 企画から完成品納品までの自己管理能力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	今や誰でも気軽に自分自身がクリエイターになれる時代です。難しく考えず、まずは楽しく挑戦してみましょう。
備考	100円ショップの物など安いもので良いので、有線イヤホンを準備してください。授業中の動画編集作業で使用します。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー&キーボードⅠ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当	■	非該当 □
担当講師 実務経歴	“KAN、浜崎あゆみ、林原めぐみなど様々なアーティストのバックコーラスやレコーディング制作に携わる。 23歳時にアニメセイバーマリオネットact5エンディング「風の詩を聴きながら」でメジャーデビュー。TVCMソング「マツモトキヨシ」他歌唱多数。 並行して、ヴォイストレーナーとして多数アーティスト(元学生はDAIGO、太田在etc)の指導を行っていた。 近年は80'sbar reflexハウスバンド歌手として毎週末stage歌唱、DISCO DJうらりーな、演劇ミュージカル出演活動もしている。昨年までコミュニティラジオ天神でサブパーソナリティもしていた。昨年デビューした福岡アイドルchitchatの専属ヴォーカルト レーナーもデビュー前から現在している。”				
授業概要					
音楽の基本的な決まり事を学ぶ「理論」と、音感を鍛える「聴音」の授業です。 理論では正確に楽譜を読み書きする能力を得ること、作曲の為の基礎知識を養うこと、音楽用語の意味を学びます。聴音では音程やリズムを耳で聴き取り、演奏や譜面におこすことができる能力を得ます。 また、様々なジャンルの音楽の基礎知識を学ぶことにより、音楽人に必要な力も養います。					
到達目標					
・音楽理論を学び、音楽人としての共通言語(専門用語)を習得する。 ・キーボード(鍵盤の音並び)の構造を理解して、読譜やシンプルなリズムのコード伴奏が出来るようになる。 ・音楽の基礎構造(音程、和音、リズム等)を理解する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ウォーミングアップ発声、音符と休符、リズムのトレーニング、メジャースケール。
【前期】 4～7回目	インターバルの紹介、読譜。
【前期】 8～10回目	テンポとリズム、ブレスのメカニズム、音域チェック、FメジャーキーとGメジャーキー。
【前期】 11～13回目	ハモリ、123メロディー発声、タイと付点子音。
【前期】 14～17回目	歌と発声、5度圏、聴き取り(イヤトレ)、ハモリ練習。 ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレ力 / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	1234メロディー発声、16分音符リズムトレーニング、ロングブレス。
【後期】 21～24回目	ピッチトレーニング、数字インターバル、ハモリ練習。
【後期】 25～27回目	12345メロディー発声、リズムチェック、サイエンステスト。
【後期】 28～30回目	ピッチトレーニング復習、インターバル、ハモリチェック。
【後期】 31～34回目	ヒット曲のメロディアナライズ。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレ力 / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレ力 / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	理論をマスターして「なぜカッコ良いのか」「どうしてグッと来るのか」といったことが分かってくると、「気持ちをこめる」だけでなく「気持ちを伝える」表現豊かな音楽ができるようになるでしょう。 また、なんといってもミュージシャンは耳が命です。音楽からいろんなアイデアをキャッチできるようになりましょう。 他にも、理論や聴音を学ぶことは、今後の歌唱・演奏や作曲の手助けになります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムヴォーカルの歴史と体系Ⅰ		授業形態 / 必選	講義	選択		
	学則別表上表記	音楽史Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀熱気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画への楽曲提供なども行なっている。						
授業概要							
・ヴォーカルの為のリズムトレーニング、身体づくり、リズムの歴史を学ぶ。(リズム史＝POPS音楽史) ・ヴォーカルに活かすためのリズム発声～アドリブスキットまで。							
到達目標							
・漠然と歌のメロディーを歌えるのではなく、頭と体でリズムを理解し、コントロールできるテクニックを身に着ける。 ・ジャンルごとのリズムの特徴を学び、歌いまわしのクオリティーを上げる。 ・体全体でリズムをキープしながら、瞬時にいかなるヴォーカルアプローチも出来るようになる。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽の歴史【ROCK】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【前期】 4～7回目	音楽の歴史【R&B】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【前期】 8～10回目	音楽の歴史【REGGAE】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【前期】 11～13回目	音楽の歴史【MIXTURE】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【前期】 14～17回目	応用編【スキット】スキットとは、リズムのフィールを感じ取り声で表す、コール&レスポンス ■過去前期試験例：筆記試験にて「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	音楽の歴史【BLUES】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【後期】 21～24回目	音楽の歴史【FUNK】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【後期】 25～27回目	音楽の歴史【SOUL】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【後期】 28～30回目	音楽の歴史【JAZZ】成り立ち歴史的背景、ジャンル理解、ジャンルの特徴をディスカッションをしながら学んでいく。
【後期】 31～34回目	1年間トータル復習・確認 ■過去後期試験例：筆記試験にて「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽のジャンルについて学んでいく中で、その音楽の成り立ちを知ろうとすると、歴史や時代背景を知る、ということにつながっていきます。リズム強化のための授業ですが、様々なジャンル、歴史について触れ、知ることで価値観も磨いていきます。価値観は表現力につながっていきます。様々な観点から歌唱力向上を目指していきます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカルサイエンス/テクニックⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択		
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	福岡や熊本を拠点とし、プロダクションや個人レッスン等でヴォイストレーナーとして幅広く活動中。ハリウッド式メソッドを中心としたヴォイストレーニングを採用。SSWオリジナル曲のヴォーカルディレクションやプロダクション所属アイドルへの歌唱指導など、各ジャンルに応じた歌唱力・表現力向上の為の技術指導を行う。						
授業概要							
発声のメカニズムを理解し、歌唱に必要なテクニックを身につける。							
到達目標							
・チェストボイス、ヘッドボイスなど声色それぞれの基礎発声を身につける。							
・発声のメカニズムを理解した上での基礎発声練習を積み重ね、声域を広げる。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	教科書使用(ボイス理論1～3)チェスト開発
【前期】 4～7回目	教科書使用(ボイス理論4～7)チェスト開発
【前期】 8～10回目	教科書使用(ボイス理論8～10)ヘッド開発
【前期】 11～13回目	教科書使用(ボイス理論11以降)ヘッド開発
【前期】 14～17回目	教科書使用(ボイス理論まとめ) ■前期試験:課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
【後期】 18～20回目	チェストとヘッドのバランス／共鳴作り
【後期】 21～24回目	チェストとヘッドのバランス／共鳴作り
【後期】 25～27回目	ミドルボイス開発
【後期】 28～30回目	ミドルボイス開発
【後期】 31～34回目	基礎発声練習(ミドルボイスの開発・定着) ■後期試験:課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	テクニックだけが大事なものではありませんが、そのテクニックへの理解を深めることにより自由な表現への足がかりとなります。思考のパターンをプロ仕様へと変更していきましょう。
備考	使用教科書「ヴォーカルテクニック」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニングⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	歌唱/演奏応用技術Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ダンスヴォーカルパフォーマー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀熱気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画への楽曲提供なども行なっている。					
授業概要						
ヴォイストレーニングを通し、正しい発声の仕方、音域の拡張、共鳴のさせ方を学習していきます。 ウォーミングアップの方法・腹式呼吸の習得・表情筋の使い方・母音を正しく響かせる口の開け方など。 また、歌唱の基礎であるチェストヴォイス～ミックスヴォイス～ヘッドヴォイスの声区融合とリズム感も併せて学習します。						
到達目標						
・ストレッチや筋力トレーニングにより、歌唱に適した体を作る。						
・様々なスケールを用い、主にチェストヴォイスを鍛えて地声で力強く発声できるようになる。						
・ヘッドヴォイスを学ぶことで、響く声、共鳴を身に付ける。						
・様々な声色(チェストヴォイス、ミックスヴォイス、ヘッドヴォイス)を習得し、歌唱へ反映させていく。						
・相対音感トレーニングにより、正しい音感を身に着ける。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ウォーミングアップ編 ～発声に入る前の準備運動～ / ストレッチ・筋トレ・リップロール・ハミング
【前期】 4～7回目	地声、低音強化編 ～地声強化のための発声練習法の取得～ / 喉を開くということ、声帯の動き、体の使い方
【前期】 8～10回目	地声、低音強化編 ～地声強化のための発声練習法の取得～ / 喉を開くということ、声帯の動き、体の使い方、リズムトレーニング
【前期】 11～13回目	裏声、ミックスヴォイス強化編 ～裏声強化のための発声練習法の取得～ / 声の種類について、息のコントロール、後ろ側の響きと前側の響き
【前期】 14～17回目	反復練習 / 地声強化のための課題曲（発声に意識して歌唱してみる） ■過去前期試験例：筆記、発声の実技試験により「練習メニューの理解度、取得度」から到達点を確認する。
【後期】 18～20回目	喚声点攻略編 ～喚声点が見えにくくなるための発声練習法の取得～ / 声の種類について、共鳴移動、声のコントロール
【後期】 21～24回目	喚声点攻略編 ～喚声点が見えにくくなるための発声練習法の取得～ / 声の種類について、共鳴移動、声のコントロール
【後期】 25～27回目	反復練習 / 共鳴移動のための課題曲（音域の広い楽曲の選曲し歌唱の中で共鳴移動を実践する）
【後期】 28～30回目	応用練習 / 様々な声色のための課題曲（別の音域を複数人で歌うことで相対音感も養いつつ、美しいハーモニーに必要な声色で歌唱してみる）
【後期】 31～34回目	総合的反復練習 / 各自課題曲（発声に意識して歌唱してみる） ■過去後期試験例：各自指定された楽曲を歌唱。「総合的な完成度」から到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の3項目の到達度、理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	発声とリズムは歌唱の基礎で最も重要な技術です。発声練習は自分の声質を把握し、より良くなっていくために欠かせません。チェストヴォイス(地声)の音域はトレーニング次第で伸ばすことができます。高く歌えないと思っていた楽曲でもトレーニング次第で歌えるようになります。また、裏声や低音域をしっかりと鍛えることで、歌唱の中で使える音色を多く習得することが可能です。自分の音域や癖をしっかりと把握しトレーニングに励み、歌える楽曲の幅を広げましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セルフプロデュース/オリジナル歌唱実習Ⅰ		授業形態 / 必選	実習		選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏実技Ⅰ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当	■	非該当 □
担当講師 実務経歴	これまでCMへのオリジナルソングの提供、ラジオ、ドキュメンタリー番組等に出演。 その後渡米し現地ミュージシャンとセッションを重ねる。 福岡、東京にて音楽イベントに多数出演。動画制作への楽曲提供なども行う。ボーカル、ピアノでの受賞経験も多数。 メジャーアーティストへのレッスン提供や、後進の育成にも励みデビューした学生も多数。					
授業概要						
ヴォーカリストとして必要な「自分の音楽を理解し、作り、表現する」能力の土台を構築していきます。 前期で作詞の構造理解/作曲・編曲の基礎を学ぶことで、半年で1曲オリジナル楽曲の制作を行っています。 後期には自作曲を自分の声で届けるための歌唱技術を磨き、楽曲の意図に沿ったパフォーマンスの完成/向上を行います。						
到達目標						
・Aメロ/Bメロ/サビの構造を理解し、自力で曲を企画・発注できるようになる。 ・歌詞のテーマ設定・ストーリー構築ができるようになる。 ・自分の楽曲の意図を理解し、言葉と歌唱を一致させて表現できるようになる。 ・作成した楽曲を携え、オーディションや配信など音楽活動に活かせるようになる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	・ガイダンス／音楽をつくるとは？オーディション等音楽活動にどう活かしていくか ・作詞の基礎講座/実践 ・自身の音楽性の分析
【前期】 4～7回目	・メロディの作り方入門 ・リズムとフレーズ感、1小節～4小節フレーズ作成 ・AI×手作業のハイブリッドで制作実践
【前期】 8～10回目	・楽器(アコギ/鍵盤など)、DAW、AIサービスなど自作できる環境の確認 ・デモ曲を作成してみる ・自作歌詞とメロを組み合わせる
【前期】 11～13回目	・仮唄を歌い可能であれば録音する ・歌詞と楽曲の微調整
【前期】 14～17回目	・ブラッシュアップ、後期に向けて曲を磨き上げる ■前期試験：自作楽曲のプレゼンによる到達度の確認。
【後期】 18～20回目	・自作曲の歌詞・物語・感情分析 ・ピッチ・リズム、メロディの歌いこなし確認 ・サウンドクリエイターコース生へ楽曲編曲の発注
【後期】 21～24回目	・自作曲を歌唱し楽曲へのフィードバックと歌唱指導① ・編曲/ブラッシュアップ
【後期】 25～27回目	・自作曲を歌唱し楽曲へのフィードバックと歌唱指導② ・編曲/ブラッシュアップ
【後期】 28～30回目	・自作曲の歌唱レコーディング
【後期】 31～34回目	■前期試験：自作楽曲の歌唱による到達度の確認。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自分自身の歌唱で表現したい事を再確認し、形にすることで俯瞰的に自身が見えてくると思います。 作品作りと歌唱を通して、卒業後のイメージをよりしっかりと持ちながら活動出来る様になりましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニング/ ピッチワークアウトⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	歌唱/ダンスパフォーマンス実習Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 ヴォーカル/ダンスヴォーカルパフォーマー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	KAN、浜崎あゆみ、林原めぐみなど様々なアーティストのバックコーラスやレコーディング制作に携わる。 23歳時にアニメセイバーマリオネットact5エンディング「風の詩を聴きながら」でメジャーデビュー。TVCMソング「マツモトキヨシ」他歌唱多数。 並行して、ヴォイストレーナーとして多数アーティスト(元学生はDAIGO、太田在etc)の指導を行っていた。 近年は80'sbar reflexハウスバンド歌手として毎週末stage歌唱、DISCO DJうらりーな、演劇ミュージカル出演活動もしている。昨年までコミュニティラジオ天神でサブパーソナリティもしていた。昨年デビューした福岡アイドルchitchatの専属ヴォーカルトレーナーもデビュー前から現在している。					
授業概要						
譜面読みを用いた、ピッチ鍛錬実技トレーニング。音楽の基本的な決まり事を学ぶ「理論」と、音感を鍛える「聴音」の授業です。 理論では正確に楽譜を読み書きする能力を得ること、作曲の為の基礎知識を養うこと、音楽用語の意味を学びます。聴音では音程やリズムを耳で聴き取り、演奏や譜面におこすことができる能力を得ます。 また、様々なジャンルの音楽の基礎知識を学ぶことにより、音楽人に必要な力も養います。						
到達目標						
・歌唱の際のピッチにフォーカスしてトレーニング方法を学び、音感を磨いていく。 ・メロディーを譜面で読める様になり、歌唱に落とし込めるようになる。 ・自身の歌唱時の発声レンジを知り、レンジを広げたり得意なレンジを知ることで歌唱に活かしていく。 ・イヤートレーニングも行い聴音力を向上させる。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ウォーミングアップ発声、音符と休符、リズムのトレーニング、メジャースケール。
【前期】 4～7回目	インターバルの紹介、読譜。イヤートレーニング。跳躍の無いメロディ聴き取り。
【前期】 8～10回目	テンポとリズム、ブレスのメカニズム、音域チェック、FメジャーキーとGメジャーキー。スケールからキー(root)を聴き取る。
【前期】 11～13回目	ハモリ、123メロディー発声、タイと付点子音。ハンドクラップでリズムを感じる。
【前期】 14～17回目	5度圏理解、リズム聴き取り(イヤトレ)、Gメジャーメロディ譜読み。 ■前期試験:「イヤトレカ / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	16分音符リズムトレーニングハンドクラップ。Gメジャー、Fメジャー譜読み。
【後期】 21～24回目	跳躍したメロディ聴き取り、譜読み。
【後期】 25～27回目	付点リズムトレーニング、メロディ聴き取り、#キー譜読み。
【後期】 28～30回目	シンコペーションリズムトレーニング。リズム聴き取り。#系メロディ譜読み。
【後期】 31～34回目	ヒット曲のメロディ譜読み。 ■後期試験:実技試験「リズム譜読み / イヤトレカ / 跳躍メロディ読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレカ / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	いろんなメロディ譜読みをして、自分が歌いたいメロディを確実にしてヴォーカル口力の基礎の音程発声安定感を養う。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	歌唱実習Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択	
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅠ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■ 音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ダンスヴォーカルパフォーマー					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	音楽大学ミュージカル科首席卒業。声楽歴25年、バレエ・ジャズダンス歴15年、「タイムフライズ」「ゴースト」「魔法のオルゴール」などミュージカル多数出演。水樹奈々アリーナコンサート、白寿ホールコンサート、その他コンサートMCやレコーディング、TBSドラマなども出演。歌唱・ボイストレーニング講師として、AKB48、HKT48、スターダストプロモーション福岡、ばってん少女隊のボーカルコーチ、子役から劇団四季劇団員指導なども行う。また、コーチングの国際資格を活かし、メンタルサポートも行う。					
授業概要						
バラードやアップテンポといったテーマに合わせて自分で選んだ曲を歌い、自分が歌うだけでなく、他者の歌唱を聞いて、見て、【歌う】【聞く】【考える】のサイクルで授業が進んでいきます。 自ら選んだ楽曲を歌いこみながらテクニックをきめ細やかに、また感情表現をより深めながらシンガーとしての自らをワークショップスタイルの中で確立していきます。						
到達目標						
自ら選曲した一つの楽曲の中で、音程、リズム、などの観点から『基礎的な技術』を、ダイナミクス、魅せ方(パフォーマンス)などの観点からは『技術的な表現力』の取得をしていきます。そこに、同じ楽曲を数週間歌い続けていく中で考察し、深めた、その楽曲への自分的解釈を足すことで『自分の歌』にできるシンガーを目指します。 また、自分の歌唱を客観視できるようになるため、他者の歌を分析することで、聞く力、気づききっかけを養っていきます。 ここで得た''歌唱力''を用いて「人に届く歌」が歌えるようになること、それが「オーディションで結果を出すこと」「ライブでお客様に楽しんでもらうこと」へと繋がるようにサポートしていきます。						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	【自由曲①(得意ジャンル)】持ち味、武器となる部分を見つけていきます。
【前期】 4～7回目	【自由曲②(苦手ジャンル)】苦手な分野にトライし、苦手克服を目指します。
【前期】 8～10回目	【自由曲③(ジャンルレス)】ジャンルに囚われず、今、自分にとって必要な要素を取得することを目的として選曲していきます。
【前期】 11～13回目	【自由曲④(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。
【前期】 14～17回目	【自由曲(アドバイスの必要な楽曲)】テストに向けた候補曲や、LIVE WEEKでの歌唱曲など、今アドバイスが欲しい楽曲を選曲します。 ■過去前期試験例:(ジャンルのみを指定)課題曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認します。
【後期】 18～20回目	【自由曲⑤(洋楽)】言語の壁はもちろんのこと、リズムや表現方法などが全く日本の楽曲と異なります。どんなジャンルでも歌えるシンガーになるために様々な楽曲への歌唱のアプローチ法を考察します。
【後期】 21～24回目	【自由曲⑥(洋楽)】言語の壁はもちろんのこと、リズムや表現方法などが全く日本の楽曲と異なります。どんなジャンルでも歌えるシンガーになるために様々な楽曲への歌唱のアプローチ法を考察します。
【後期】 25～27回目	【自由曲⑦(完全自由曲)】ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【後期】 28～30回目	【自由曲⑧(完全自由曲)】一年間の集大成となるような難易度の曲を選曲します。憧れていたけど歌ってこなかった曲、自分にとって少し難易度の高い曲を選ぶことで現在地を確認します。
【後期】 31～34回目	【自由曲(①～⑧より選択)】これまで歌い込んできた曲をもう一度歌うことで、前期の自身と比べることができ、より深く自身の歌唱力と向き合っていきます。 ■過去後期試験例:自由曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認します。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の4項目の到達度を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	歌うことを職業にしていくなめには、技術は絶対に必要になってきます。この技術を取得し続けるためには、自分で課題を見つけ、自分で課題を解決していく力を身につける必要があります。その一連の流れが一人でできるようになるための練習をこの授業の中で学んでいきます。 まずは気づくこと。知ること。そこから始めていきましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎Ⅰ		年次	1年次
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀熱気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画への楽曲提供なども行なっている。				
授業概要					
課題曲に内包されているテクニック、リズム、ハーモニーなどの類例を自らの経験値として取り込みながらバンドアンサンブルについて理解を深める。 3週で楽曲が変更。ライブイベントへ向けてのリハーサルも兼ね、パフォーマンス力、ステージング力の向上をもはかっていく。					
到達目標					
・ボーカルだけでなく各楽器(Gt. Ba. Dr.)とのアンサンブルができるようになる ・曲を理解し、バンド内のコミュニケーション、ボーカル以外の音の聴き方、リズムの取り方を身に着ける ・楽器の音、バンドアンサンブルにおける自分の音をしっかりと聞き分けられるようになる					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	1曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 4～7回目	2曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 8～10回目	3曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 過去3曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【前期】 11～13回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティを上げるためのリハーサル週間
【前期】 14～17回目	4曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 ■前期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	5曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 21～24回目	6曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 25～27回目	7曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 28～30回目	8曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 後期4曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【後期】 31～34回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティを上げるためのリハーサル週間 ■後期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルは音楽活動をするうえで避けては通れない技術になります。楽曲の理解、バンド内コミュニケーション、全体のサウンドにおける自分の歌の位置づけを知ることは歌のクオリティを上げるために非常に重要なことです。ボーカル以外の楽器の音を聴き分けることもアンサンブルを上達させるために必要になります。この授業を通して、楽曲の聴き方、音楽のより深い楽しみ方を学び、人と人とが奏でる音楽・アンサンブルに繋げていきます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブパフォーマンス実習Ⅰ		授業形態 / 必選	演習	選択	
	学則別表上表記	アンサンブル応用Ⅰ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル					
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ☒ 非該当 ☐
担当講師 実務経歴	鍵盤弾き語り、シンガーソングライター。 The 8th Music Revolution Hi-Gain大会、V3新人オーディション20th、など、多数のオーディションでグランプリ、ファイナリストに選出される。 2016佐賀熱気球世界選手権、TV CM、企業CM、短編映画への楽曲提供なども行なっている。					
授業概要						
課題曲に内包されているテクニック、リズム、ハーモニーなどの類例を自らの経験値として取り込みながらバンドアンサンブルについて理解を深める。 3週で楽曲が変更。ライブイベントへ向けてのリハーサルも兼ね、パフォーマンス力、ステージング力の向上をもはかっていく。 ※アンサンブル基礎Ⅰの二コマ目として実施						
到達目標						
・ボーカルだけでなく各楽器(Gt. Ba. Dr.)とのアンサンブルができるようになる						
・曲を理解し、バンド内のコミュニケーション、ボーカル以外の音の聴き方、リズムの取り方を身に着ける						
・楽器の音、バンドアンサンブルにおける自分の音をしっかりと聞き分けられるようになる						

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	1曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 4～7回目	2曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 8～10回目	3曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 過去3曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【前期】 11～13回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティを上げるためのリハーサル週間
【前期】 14～17回目	4曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 ■前期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 18～20回目	5曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 21～24回目	6曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 25～27回目	7曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 28～30回目	8曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 後期4曲の中からLIVE WEEKに向けてチーム決定。
【後期】 31～34回目	LIVE WEEKに向けてパフォーマンスやクオリティを上げるためのリハーサル週間 ■後期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルは音楽活動をするうえで避けては通れない技術になります。楽曲の理解、バンド内コミュニケーション、全体のサウンドにおける自分の歌の位置づけを知ることは歌のクオリティを上げるために非常に重要なことです。ボーカル以外の楽器の音を聴き分けることもアンサンブルを上達させるために必要になります。この授業を通して、楽曲の聴き方、音楽のより深い楽しみ方を学び、人と人とが奏でる音楽・アンサンブルに繋げていきます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	DAW/ボーカロイドⅠ		授業形態 / 必選	実習	選択		
	学則別表上表記	DAW・DTM基礎Ⅰ	年次	1年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル						
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目					該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	幼少の頃から本格的にクラシックピアノを20年間学び、コンクール等で多数受賞。 現在は自身で作詞作曲をジャンル問わず行いながら、鍵盤などで多くの演奏サポートや制作に携わる。 これまでに発表した作詞・作曲作品、またアレンジした楽曲は80曲以上ある。						
授業概要							
作曲・編曲などDAW(Logic Pro)の基礎的な使い方を理解・習得します。 楽曲制作を行う手順を一から理解できる様にします。							
到達目標							
・楽曲制作を行う上での基礎的なDAWの操作の習得。							
・ドラムパターンやコードの打ち込み、そしてサンプル音源の使い方などを覚えて、スムーズな楽曲制作を習得。							
・メロディ、リズム、ハーモニーを元とする基礎編曲の理解。							
・ドラム、ベース、ピアノ、ストリングスなどのMIDIノート打ち込みを習得する。							
・ボーカロイドの操作を習得。							

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	DAWについて、Logicについて。 Logicの操作方法、基礎的な使用方法について。
【前期】 4～7回目	Drumパターンの打ち込み(MIDIノート)、クオンタイズについて。 Drum Fillの作り方、打楽器について。
【前期】 8～10回目	鍵盤楽器の打ち込み。アルペジオ、コード打ち込みについて。
【前期】 11～13回目	ベースの打ち込み。ベースのパターンについて考える。 楽曲制作① 1分程度の楽曲制作。
【前期】 14～17回目	楽曲制作①提出、フィードバック。 メロディの打ち込みについて。 ミキシング・マスタリングについて①
【後期】 18～20回目	ストリングス・ブラス系の打ち込みについて。 弦楽器・管楽器の種類についての理解。
【後期】 21～24回目	シンセサイザーの使い方、打ち込みについて。 オートメーション、音色の作り方。
【後期】 25～27回目	楽曲制作② 3分程度の楽曲作成。 ボーカロイドの使用方法について。
【後期】 28～30回目	楽曲制作②フィードバック。 ボーカロイドの歌わせ方。ミキシング、マスタリングについて②
【後期】 31～34回目	コンプ・EQ・リバーブ等の使用方法について理解を深める。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「編曲の理解/DAW操作の理解/Mixクオリティ」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	楽曲制作は音楽業界の中でも中心的な存在です。最初は難しく感じるとはいますが、苦手意識を持たずフラットな気持ちでDAWの様々な使い方を勉強しましょう。
備考	